



おかめファンクラブ

戸田屋のお客様におはなしをうかがいました。

インタビュー #021

岩見 明美さん

株式会社アイ・エム・シー経営管理部・CS(お客様満足)担当。「また来たい」とお客様に思っていただけの会社づくりのために日々尽力している。

毎年会社の創業記念日や経営方針発表会、お祝い事があるときには戸田屋さんのお菓子とお赤飯を全社員へお渡ししています。弊社では「社員は家族」という思いが根幹にあり、社員の皆さんには安心・安全なものを召し上がっていただきたいと考えております。ですから品質にごまかしのない戸田屋さんの商品は最適なのです。

おもてなしの中には会社の姿勢が表れます。気配りは当たり前でなければならぬのです。わたくし自身は、お茶をお出しするタイミングや器との相性など、細やかな心配りを大切にしています。接遇の中でも戸田屋さんのお菓子はよく使わせていただいておりますね。安心して安全、見た目も美しく尚且つ

美味しい。選ばせていただくのにはそのような理由があります。商品はどれも魅力的なものばかりですが、一番喜んでいただいているのは『大福五人囃子』。もちもちの生地の中に様々な味わいがあり、二重にも三重にも美味しさを楽しめたい。お客様のところにお持ちしたときに「また持つてきてね!」と言っていたこともありました。お客様に笑顔になっていただくこと、こちらも笑顔になります。

「お茶とお菓子、大変美味しかったです」そんな何気ない一言があった時は、心から嬉しく思います。小さなことですが、それが会社のイメージアップにもつながっていますし、お客様に喜んで帰っていただくことが一番ですから。

おかの新聞

晩秋号



おかめマーク、創業者のおばあちゃんのお顔絵です。当店のイメージキャラクターにしました。戸田屋正道のイメージにピッタリです。今では「おかめマーク」＝「戸田屋正道」になりました。

業進専心 戸田屋正道
とだやしやうどう
http://www.toda-ya.com

菓子職人日記

戸田 正宏

謝申し上げます。

秋も深まり、蔵王の山も雪化粧しました。今年の雪は早いのでしょうか。早いもので一カ月余りで今年も終わります。年をとったせいでしょうか、時が経つのが早く感じるようになりました。

早いといえば、私が戸田屋正道に入社してから今日まで、本当にあつという間でした。この間、妻の支えがなければこの店と私の人生は無きもの

と思つていきます。思えば、遙か静岡から嫁いできてくれた妻です。本当に私だけが頼りなのに、私も若かったせいで妻を放つたらかして遊びまわりました。何度も辛い思いをさせました。子育て、家事、そして家業と、文句も言わずやつてのける妻にはただ頭の下がる思いです。十一月二十二日は「いい夫婦の日」。この紙面をお借りし感

私も六十歳を過ぎ人生仕上げの時。いよいよ後進の手下となる生き方をしなければなりません。晩節を汚さぬよう品性の向上に努める覚悟。近頃めつきり弱くなった酒で躓かなければの話ですが……。熱燗が実に旨い季節となりました。

ただいま塾生募集中です!

当店が長らく所属し、よい食品づくりの研鑽を重ねてきた「山形さらど協同組合」が組合組織を解体し、このたび「さらど塾」として生まれ変わります。協同組合では縛りが多く、メリットもなくなったのが理由です。これまでは山形県の企業しか入会できず、出資金も必要なため仲間を増やすのが大変でしたが、これからはよい食品づくりに興味のある方ならどなたでも入塾出来ます。私たちの求心力の礎部晶策先生も90歳になりますが、益々ご健勝にて私たちを導いて下さいます。食品業に携わり、入塾ご希望の方はご一報下さい。私が責任を持ってご案内致します。

さらど塾 塾生 戸田 正宏

編集後記

先日、久しぶりに「山形県菓子まつり」をビッグウイングで開催しました。初日はPR不足もあってか物足りなさを感じましたが、2日目は朝から大変な賑わいで、用意した菓子もほぼ完売。私の担当した和菓子実演コーナーにも沢山の人がご来場いただき、スタッフも手応えを感じたようでした。お手伝い頂いた他の和菓子屋さんも、当店同様に若い技術者が育っており、良い意味で大変刺激されました。山形の和菓子界を盛り立てるため、これから率先して切磋琢磨しようと思ひます。



当時の紙札

戸田屋界隈の元気な名所 第10回 街ナビ

なかたち石

山形市小姓町11-13



小姓町界隈ではお大日つつあんと親しまれている、大日堂の敷地内にある『なかたち石』。高さは一五八センチメートルほどの角柱で、建立は江戸末期の文久元年(一八六一)年。全国に十五〜十六現存している『迷い子するべ石』の一つとされていますが、『なかたち石』と名がついているのはここだけ。この石はもともと迷い子の捜索に役立っていました。『たつぬる方』と彫られた側に親がその子の名前、住所、特徴などを書いた紙札を張ります。すると保護したり、知っている人が『をしへる方』に状況を書いて知らせたのです。ほかに仲人の依頼や、失せ物・乳母探しなど、昭和三十年代まで実に多様な情報交換が図られていたのだとか。



「インターネットがなかった時代、街のコミュニケーションセンターのような重要な役割を果たしていたのでは」と小姓町の郷土史に詳しい阿部考伸さん。情報を伝えることが安易ではなかった当時、祈るような気持ちで紙を貼った人々。なかたち石を訪ね、時代に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

人間が好き、お菓子大好き!

品質責任の証

当店は、礎部晶策氏(岩波新書「食品を見分ける」著者)の提唱する礎部理念に基づいた菓子づくりをしております。お客様に心の底から喜んでいただける徹底した菓子づくりと、お客様の後ろ姿に「どうぞお幸せに」と祈りの販売をすることにより、品性資本を蓄えることを当店の理念としております。

よい食品の四つの条件

- 一、安全で、安心して食べられること
- 二、ごまかしのないこと
- 三、味のよいこと
- 四、品質に応じて価格が妥当であること

食品に携わる人の四つの原則

- 一、原材料の厳選
- 二、加工段階の純正化
- 三、固い信念をもとづく一徹なメーカーの姿勢
- 四、メーカーといえども99%は消費者の立場と自覚

業進専心 戸田屋正道
とだやしやうどう

http://www.toda-ya.com

〒990-0032 山形市小姓町1番32号

午前9時〜午後7時(日曜・祝祭日6時半閉店)

定休日/元日、第二・第四水曜日(祝日・繁忙期は営業)

TEL.023-622-6728 FAX.023-634-6728